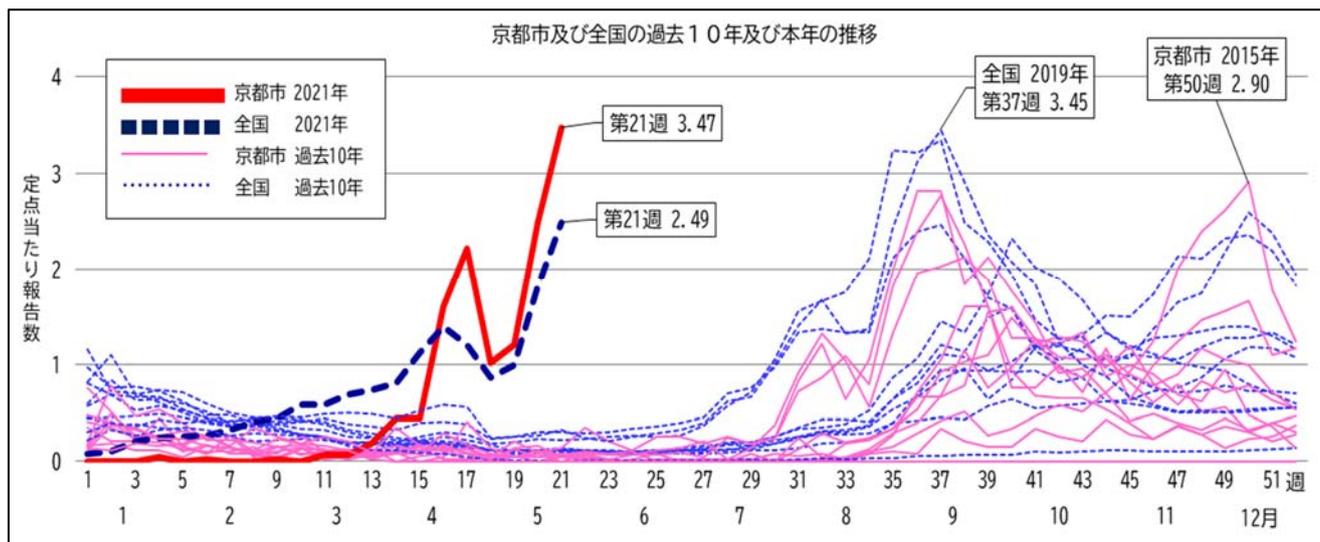


## RSウイルス感染症患者急増中！

RSウイルス感染症は例年、秋から冬（9月～翌年1月頃）にかけて流行しますが、本年は例年と異なり、現在、非常に多い患者数となっています。

### 概況



京都市及び全国の過去10年の発生状況（グラフの細かい線）は、年ごとの報告数にバラつきはありますが、流行期とされている夏から秋にかけて多くの報告があります。一方、非流行期とされている3月～6月は、どの年も総じて報告数が少なく、バラつきも少なくなっています。

しかしながら本年の発生状況（グラフの太い線）は、非流行期であるにもかかわらず、全国では第5週（2021年2月1日～7日）頃から、京都市では第14週（2021年4月5日～11日）頃から、例年とは明らかに異なる推移を示しています。過去10年で最も多かった定点当たり報告数（※）は、京都市では2.90（2015年第50週：2015年12月7日～13日）で、本年21週（5月24日～30日）時点の3.47はそれを上回っています。全国では最高値3.45（2019年第37週：2019年9月9日～15日）には達していないものの、過去の同時期と比較してもかなり多い発生状況と言えます。

全国的に異例の流行状況であり、例年の流行期以上に強い警戒と注意が必要です。

次ページにRSウイルス感染症の症状や感染経路などについて解説しています。よく読んで、予防に心がけてください。

※定点当たり報告数：定点医療機関から報告された総患者数を定点数で割った値（1 定点医療機関あたりの平均値）

## RSウイルス感染症とは？

RS（アールエス）ウイルスを原因とする感染症で、主症状は発熱、鼻水、咳などです。RSウイルスには大きく分けてA型、B型があり、それぞれがさらに細かく分類されるためたくさんの種類があります。このため、一度罹（かか）っても終生免疫が得られず、何度も感染します。例年は秋から冬（9月～翌年1月）にかけて流行します。

RSウイルスの感染力は非常に強く、生後1歳までに半数以上、2歳までにほぼ全員の乳幼児が感染するといわれています。初めての感染（特に生後数週間～数箇月間）では重症化しやすく、細気管支炎（※）、肺炎といった重篤な症状を引き起こし、症状によっては入院が必要な場合もあります。低出生体重児や基礎疾患のあるお子さんは、より重症化のリスクが高いといわれています。

潜伏期間は2～8日間程度で、発症してから治癒まで通常7～12日かかります。

（※）症状の特徴：ゼーゼーという喘息のような呼吸音や呼吸困難

## 治療方法など

RSウイルスには特効薬やワクチンはありません。医師の判断で、経過観察あるいは症状を和らげる治療（対症療法）となります。

## 感染経路

感染している人の咳やくしゃみのしぶきにはRSウイルスが含まれています。感染している人の咳やくしゃみのしぶきを直接吸い込むことにより感染します（飛沫感染）。また、しぶきがついている手指や物を触ったり、口に入れたりすることでも感染します（接触感染）。

## 予防方法

日常的にお子さんに接する方で、せきなどの症状がある場合、マスクを着用しましょう。

子どもたちが日常的に触れるおもちゃなどをこまめに消毒しましょう。消毒にはアルコール及び塩素系消毒薬が効果的です。

流水と石けんでしっかり手洗いを行い、手指のアルコール消毒も行いましょう。

※消毒薬は子供の手の届かないところに保管してください。

気になる症状がある場合は早めにかかりつけの医療機関を受診しましょう。

☆正しい手洗い方法の紹介☆（京都市こどもの感染症「手洗いの方法」）

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/tearai.pdf>

（管理課 疫学情報担当）

衛生環境研究所にゆ一す

141号 2021年6月発行

発行：京都市衛生環境研究所

〒612-8369 京都市伏見区村上町 395 番地

電話 (075) 606-2676 FAX (075) 606-2671